

さぬき市教育事務点検評価委員会（第2回） 会議要旨（要約）

- 1 日 時 平成27年8月18日（火） 10:00～10:42
- 2 場 所 さぬき市教育委員会2階会議室
- 3 出席者 [委員] 宮本 強 伊座並大一 鈴木珠美
 [事務局] 安藤教育長 和田教育部長
 間島教育総務課長 谷学校教育課長
 中野生涯学習課長 石原学校再編対策室長
 山中学校教育課主幹 富田教育総務課副主幹
 [傍 聴] なし
- 4 議 題 教育委員会の事務の点検及び評価報告に対する意見等について
 その他
- 5 会議の内容は、次のとおりである。

発言者	意見概要
(事務局)	ただ今から、さぬき市教育事務点検評価委員会（第2回）を開会します。開会に当たり、教育長から御挨拶を申し上げます。
(教育長)	(教育長あいさつ)
(事務局)	次第に沿い、進行していきます。 3教育委員会の事務の点検及び評価報告に対する意見等についてですが、まずは、前回会議での指摘を基に修正した箇所について、説明します。
(事務局)	(前回以降記述を修正した箇所について、資料に基づき説明した。)
(事務局)	では、教育委員会の事務の点検及び評価報告に対する意見等について、委員それぞれから、既に書面での提出がありましたが、補足説明も含めて改めて意見を申し上げます。
(委員)	(別添意見書のとおり)
(事務局)	書面に記載した事項以外に、指摘、感想、その他確認しておきたいことなどはありませんか。
(委員)	施策評価について、A評価がB評価になったことに関してのみ指摘しています。しかし、必ずしもA評価が継続していればそれでよいとも限らないと思います。実施の中で新たな課題が生まれ、B評価となることもあります。ある意味においては、真剣に取り組めば取り組むほど課題が見つかり、B評価となってしまうこともあると思います。表面上の評価だけではなく、内容をしっかり押さえてほしいと思います。
(委員)	閉校した学校施設について、いろいろな利活用が検討されているところだとは思いますが、一住民としてこれら閉校施設を見たとき、本当にこのままでよいのかと思っています。現在、ほとんどの閉校施設が何もせずそのまま残されています。これを維

	<p>持するためには費用も必要で、さらに、仮に何かに転用した場合には、相当な費用が必要になります。少なくとも、借地のある施設については、早期に解体撤去し、更地にして返却する決断が必要だと思います。解体に相当額が必要になるとは思いますが、何もしないのに借地料の支払を積み重ねるより良いと思います。一方では、何も利用されず広々とした運動場は、近所の子どもが遊ぶ広場となり、喜ばれている一面もありますが、とにかく何の特別な目的もなく残されていることがもったいないと思います。借地の存在に関しては、多くの市民が知らないことだと思います。知れば市民の見る目も変わると思います。是非、教育委員会から市当局に働き掛けてほしいと思います。</p>
(委員)	<p>学校の統合そのものについては、計画に従いスムーズに進捗していると認識しています。これに関し、学校は、地域コミュニティの中核として一面もあります。これまでは、校区と地域コミュニティの単位がほぼ同一でありましたが、校区が広がったことにより差が生じました。例えば学校の運動会や文化祭などは、「地域の行事」といった認識もあったようですが、それらの地域住民の意識の変化等については、どのように把握していますか。また、PTAや部活動については、どのような影響がありましたか。</p>
(教育長)	<p>校区に関しては、小学校と中学校のそれとでは、地域の意識も異なっているようです。運動会については、子や孫がいれば見に行く方も引き続き多いようです。さぬき南中学校では、とても多くの地域の方が来ていました。志度中学校でも同様であったと聞いています。また、PTAについては、我が子が通う学校として、これまでと同じような視線ではないかと感じています。部活動においては、統合から間もないことから地域との関わりについては教員の試行錯誤が続いているようですが、活動そのものに関しては、生徒数が増えたことにより様々な種類のスポーツに取り組めるなど、意識の高まりが見られるところです。確かに、住民の中からは、子どもの声が聞こえなくなり寂しいとか、校庭などの草が伸びたのを見て、荒れた感じがするとの声が聞かれますが、全体としては、新しい学校を応援しようという意識があるとの手応えを感じています。また、教育委員会としては、今後の方針として、小学校は、可能な限り少なくとも旧町に1校は配置したいと考えているところです。中学校については、既に3校となっていますが、統合の影響が落ち着いた段階で、小学校を含めた通学区域の見直しを行う必要があるのではないかと見通しも持っています。</p>
(事務局)	<p>他に意見等はありませんか。</p> <p>(意見・質疑等なし)</p>
(事務局)	<p>次に、今後の報告書の取扱いについては、今月25日に教育委員会定例会を開催し、その中で正式な報告書として決定し、その後、市議会に報告するとともに、市民にも公表することとしています。</p> <p>以上をもって本日の会議を閉会します。</p>

1. 教育方針に係る施策の評価について

(1) 「生涯にわたって学び、自立して生きる力を持つ人を育む。」について

学校再編計画の推進と学校施設の整備や充実などハード面での取組は、評価できる。また、全国学力・学習状況調査、香川県学習状況調査等を分析し、改善対策を検討することにより、各学校が学力向上に努めていることは評価できる。一方、教職員の研修内容や指定校の実践の成果等については、十分に広がっているとは言い難い。この点について改善し、成果や課題を共有できるよう工夫する必要がある。

(2) 「自然や人間・文化に学び、ふるさとを愛する人を育む。」について

文化財資料の基礎整理が8割ほどまで進捗していることや、さぬき市に関係する先人の遺徳展、芸術家の作品展が実施できたこと等は、評価できる。今後の課題として、これらの継続的な活用と県内外に郷土の情報として発信していくことも必要である。

また、文化協会等の文化団体は、会員の高齢化などの悩みを抱えながらも、生き甲斐づくりや地域社会の連帯と活性化のため活動を継続している。今後とも、日々の練習の場、発表の場として中核的役割を担う各公民館、音楽ホール、21世紀館さんがわ等の施設利用については、格別な支援が必要と思われる。

(3) 「ふれあいと連帯の心を養い、人権を尊重する人を育む。」について

学校（園）における人権教育の取組や人権教育の研修、現地学習、社会教育関係団体の研修などで成果をあげている。また、児童・生徒の人権作品の展示や、辛立文化センターの夏・冬のつどいにおいて学校、行政、市民が協力して取り組んでいることなどは、評価できる。こうした活動に対し、内容のマンネリ化、参加者の固定化などといった批判もある。しかし、人権教育に特效薬はなく、愚直に継続することと、問題を共有していくことが必要である。一方、ITの普及などにより、大人や親、学校が把握できにくい中で、子どもの人権が損なわれる事象も多発しているため、IT機器の使用について、一層の取組が必要である。

(4) 「生命の尊重と健康の増進に努め、しなやかな心身を持つ人を育む。」について

学校（園）における教育相談体制に関しては、校種・異校種間の連携が深まっていることは評価できる。また、小学校4年生を対象とする小児生活習慣病予防検診を実施し、生活習慣の改善に取り組んでいることは評価できる。一方、体力づくりに関する成功事例については、他校（園）への周知が不十分のようなので、今後の研修の在り方を検討する必要がある。

スポーツ大会では、全国大会に出場する生徒が増えていることは評価できる。今後ともスポーツ推進委員の育成とともに補助金の交付などを継続していくことが重要である。

2. 教育委員会の活動状況に関する評価について

教育委員会が学校行事や社会教育活動にきめ細かく参加して、現状を把握していることは評価できる。今日、全国的に子どもを取り巻く環境が悪化している状況を鑑み、子どもが事故や事件に巻き込まれることがないように、現状を踏まえた危機管理意識を高める必要がある。

26年度評価については、総合的に上がっていることは評価できる。一方、A評価からB評価に下がっている個別施策もある。これらについては、今後の課題として、工夫と努力が求められる。

1. 「生涯にわたって学び、自立して生きる力を持つ人を育む。」について

「特色ある教育活動」の推進では、全ての幼稚園、小・中学校で1週間のうちに3日以上読書の時間を設定している。読書活動を取り入れた日課表と朝読書の継続により、一日を落ち着いた雰囲気スタートができ、学校生活の安定につながっていることは、評価できる。読書離れが深刻化している現在、読書活動及び読書環境・設備の充実に努めてほしい。さぬき市教育振興基本計画には「読書のまち さぬき」の創造に向けて、市内全ての幼児・児童・生徒に、読書する習慣を身に付け、読む楽しさを知ってほしいとある。そのために、図書館活動の充実や子どもの読書活動の推進を図っていくとともに、各家庭の読書環境を整えられるような働きかけも必要である。

安心・安全な学校施設の整備と充実に関して、統合後の学校運営に最低限必要な増改築工事が予定どおり完了し、無事に学校生活がスタートできたことは、児童・生徒だけでなく、保護者・地域の人達にとっても、ほっとしたところであろう。引き続き、学校規模と配置の適正化及び施設整備の推進に努めてほしい。

「確かな学力」を培う学校教育の充実で「自主勉ノートEXPO」を実施し、優れたノートを紹介するパンフレットを全児童・生徒に配布し、自主学习などの家庭学習の充実に取り組んでいることは、評価できる。

子どもたちの障がいの多様化が進む中、学校生活支援者・特別支援教育支援員等の適切な配置に努められていることは、評価できる。今後は、教職員の資質の向上施策として、教職員自身が、全ての児童・生徒と接する際の専門的な知識と技能を今以上に身に付けられるような研修の充実に努め、プロとしての自覚と意欲を持って仕事のできる人間を育ててほしい。

社会教育団体の育成と支援において、各種団体の自立性の確保や自主性を高めるよう指導を継続するとともに、地区ごとに縦のつながりが持てる活動を多く取り入れることも必要である。

2. 「自然や人間・文化に学び、ふるさとを愛する人を育む。」について

統合に伴い学校区が広がったことにより、ふるさと教育も新しい視点と視野に立って研究・実践していかなければならない。地域の特色を生かしたふるさと教育を今以上に推進してほしい。

市内各所に分散している文化財資料の基礎整理が8割程度完了したことは、評価できる。今後も、継続的に資料の整理をお願いする。また、自然科学館や民俗資料館において特別展を開催しているが、さぬき市としての特色ある展示内容の工夫に努め、一般公開の機会を多くするよう努めてほしい。

文化祭や芸能発表会など各団体が自主的な活動を実施し、定着してきていることは、評価できる。団体によっては、かなり高齢化してきていることを考えると、若年層への働きかけが必要である。また、閉校になった未利用施設を文化財の展示や芸術家のアトリエとしての利用を考えているようだが、是非とも安全で利用しやすい施設整備を図ってほしい。

3. 「ふれあいと連帯の心を養い、人権を尊重する人を育む。」について

人権週間に人権啓発作品を展示したり、辛立文化センター冬のつどいを開催したりして、人権意識を高める機会を持っていることは、評価できる。来場者が関係者と出演校（園）だけに固定化されないよう、他校（園）に対しての参加来場の呼びかけや地域住民（各自治会や各団体）への広報に努めてほしい。また、「さぬき市内の子どもたちの人権作品集」と同時に、住民（大人）からも日頃の生活体験作文（人権問題）を募集し、作品集（子どもの作品と一緒に1冊にまとめる）を全戸配布することも考えてほしい。また、人権まなび講座の参加者の固定化が少しずつ解消されつつ

あるようだが、学校教育部会以上に社会教育部会において、人権教育を推進できるリーダーを多く養成してほしい。

各学校（園）が行っている人権学習において、保護者参加型の講演会等により子育て支援につなげることができていることは、評価できる。今後は、地域住民も参加できるような手立て・工夫を図ってほしい。また、人権・同和教育研究大会が平日開催である限り、企業の参加は今後も難しいと思う。開催日程の調整を図ってでも、多くの企業に対して参加要請に努めてほしい。

4. 「生命の尊重と健康の増進に努め、しなやかな心身を持つ人を育む。」について

危機管理マニュアルや防災計画の見直しができ、外部機関と連携した訓練もできていることは、評価できる。訓練が形がい化しないように、各学校（園）に対して、指導・支援に努めてほしい。

「行きたくなる学校（園）」となるように、アンケート内容の工夫をして困っている子どもの声を正確・迅速に把握するように努めるだけでなく、学校と教育委員会は、どんな些細なことでも共有し、いじめは絶対に許さない気持ちで対応することが重要である。

少年育成センターは、保護者・学校・関係機関との連携や定期的な訪問実施で情報交換でき、悩み等の共有化も図れていることは、評価できる。人的及び財政面でも大変だと思うが、教材教具の充実とともに、スポーツ・野外活動の機会を多くしていくことも大切である。

5. 「教育委員会の活動状況」について

会議の開催状況において、青少年交流プラザと大川学校給食共同調理場で開催しているが、今後も年2回だけでなく、許せる範囲で各種施設での開催を増やしていくことで、各委員が施設のソフト面・ハード面を把握することができると思う。

会議以外の活動では、学校訪問をはじめ、各種行事や研修会へ出席・参加していることもさぬき市の教育発展に大きく役立っている。

1. 「生涯にわたって学び、自立して生きる力を持つ人を育む。」について

特色ある教育活動について、「うちの学校（園）自慢」の策定に期待していたが、まだ策定には至っていないようである。市内の小・中学校、幼稚園が統合され、施設面は新しくなり、教育環境は整ったが、一方、ソフト面でも個々の学校（園）が自慢できる特色ある教育活動に、是非前向きに取り組んでいただきたい。

特別支援教育について、支援が必要な児童・生徒の対応を行うため、学校生活支援者及び特別支援教育支援員の配置がなされているが、引き続き、適切な配置に努めていただきたい。

公民館等施設について、生涯学習活動の拠点として、各種の市民自主企画講座が開かれているが、年々減少傾向にあり、社会教育活動団体の後継者不足が危惧されている。今後、施設の使用料の見直しとともに、社会教育活動団体の活性化が必要である。

2. 「自然や人間・文化に学び、ふるさとを愛する人を育む。」について

文化財資料について、調査が順次進んでいるようであるが、市内の文化財への関心をもってもらえるよう、現地説明会や講演会等を積極的に行い、郷土を愛するきっかけづくりや市内外に向けて文化財PRに努めていただきたい。

市文化団体について、各団体主催の文化祭や芸能発表会等は定着してきているが、今後維持していくためには、若年層への働きかけが不可欠であるので、対処していただきたい。

3. 「ふれあいと連帯の心を養い、人権を尊重する人を育む。」について

人権学習について、人権講演会や人権劇公演、映画会、コンサートなどを継続的に行い、人権に関する理解を深め、人権意識を高める機会にしていきたい。また、参加者が増えることによって、人権意識がより高まると思われるので、啓発に努めていただきたい。

4. 「生命の尊重と健康の増進に努め、しなやかな心身を持つ人を育む。」について

学校危機管理について、全ての学校（園）で「危機管理マニュアル」が整備され、それに基づいた避難訓練等も計画的に行われているようであるが、いざ危機に直面した際には、的確な判断が求められるので、あらゆる事態を想定した訓練を継続実施し、子どもたちの安全を守っていただきたい。

いじめ防止対策について、いじめ防止基本方針に基づき、相談員等を充実し、早期発見の体制づくりを行っているが、教育現場で有効に機能することが最も大切であるので、関わる者同士の情報の共有、共通理解が必要である。

地産地消の推進について、年間の地場産物使用割合が34パーセントで、前年度を上回ったことは評価できる。引き続き関係機関と連携し、より内容に配慮した学校給食に努めていただきたい。

5. 「教育委員会の活動状況」について

「さぬき市教育振興基本計画」に基づく施策の点検・評価について、前年度に比べ、BからAへ評価が上がった項目が増えたことは、評価する。今後も、関係機関一体となって施策評価が上がるよう努めていただきたい。